

# 運転代行業 事故防止マニュアル



全国運転代行共済協同組合

# 事故防止＝収益性の向上

運転代行サービスへのニーズは益々高まり、稼働量も拡大しております。稼働量が増えるほど、事故のリスクも隣合せです。その中で決して忘れてはならないのは安全対策の徹底です。業務中の事故は運転手はもとより、使用者責任を有する事業所にも責任が及び、さらには社会的な信頼をも失い、事業所のイメージのみならず、代行業界全体にもとっても大きなマイナスとなります。

安全徹底による「信頼」こそ事業発展のすべての基盤であり、「収益性」の向上へと繋がります。

## 事業者・運行管理者として

運転代行業務は、どんなに急いでも輸送回数には限界があります。ドライバーはハンドルを握ったならば、ただ車を運転するという事ではなく、急がず、気持ちを落ち着け、全神経を業務に集中する必要があります。その為には事業者・運行管理者は、ドライバーが業務に集中できる環境を整え、指導することが必要となります。

1. 業務開始前の点呼（ミーティング）を必ず行う。
2. 業務に対する、しっかりとした方針姿勢を従業員に指示し、お客様の大切な命と財産を預かる意識を刷込み、生半可な気持ちで業務に従事させない。
3. 簡単そうなことが意外と難しいが、繰り返し根気よく従業員に徹底させる
  - ：タバコの灰は灰皿以外に落さない
  - ：ゴミやタバコのポイ捨ては言語道断！
  - ：タイヤが動いている間、お客様を呼びに行っている間のくわえタバコ禁止。
  - ：ゴミは車内に放置せず、直ちに処分。
4. 安全運転を妨げる諸要因を取り除く。
  - ：過労、道路情報、車両点検、気象情報等
5. 業務の前後に随伴車両を点検
  - ：運転者が出社する前には灰皿、マットの汚れ、車内にゴミ一つ落ちてない様、スタンド等で清掃する（きれいな車はきれいにあつかうはず）。
6. 車内規定や安全に対するポスター、標語、社内的なスローガンを作成し掲示。
7. 運転者の服装・履き物・体調を走行の前の点呼によりチェック。
8. 配車案内は、ゆとりを持って到着時間を伝え、運転手を焦せない。
9. 無事故月間を設ける。
10. 個々の運転者を対象として、実際に行われている行動・行為に対して直接的に適・不適を指摘し、不適である場合はその矯正のための指導を適時行う。
11. 運転業務ヒヤリマップを作成
  - ：業務中よく使う道路についてのルートマップの作成。
  - ：事故が多発する場所は通らない。
  - ：徒歩で気がついた箇所についても、危険個所を記入する。
14. ドライブレコーダーの導入の検討
  - ：事故の際、映像から自己責任が明確になり、事故処理の労力と時間の短縮を図る。
  - ：記録映像を乗務員の安全教育に活用。
  - ：常に見られているという意識から集中力が高まり、事故・違反の減少につながる。

# ドライバー注意事項

- |    |  |
|----|--|
| 迎車 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 乗車前には絶対に客車周囲を2人でチェック</li><li>2. 車の特性に注意。<br/>(同じ車種でも持主が違えば違う車/A T車のクリープ現象など)</li><li>3. 縁石や段差に注意し、エアロパーツ、タイヤ、ホイールの損傷を避ける。</li><li>4. 出発時は交通状況を確認し、絶対誘導。</li></ol> |
|----|--|



- |     |     |   |
|-----|-----|---|
| 代行中 | 代行車 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. お客様の行き先は、早めに確認。</li><li>2. 常に早め早めの行動で運転。(ウィンカーの指示)</li><li>3. 信号の替わり際は、早めの減速、停止。(急ブレーキは禁物！)</li></ol>  |
|     |     | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 「だろー運転」ではなく、「かもしれない運転」を。</li><li>2. 青信号でも安全確認！(特に、青信号への替わり端は要注意！)</li></ol>  |
|     | 随伴車 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 1人のため、業務中という意識が薄れやすい。</li><li>2. 随伴車とはいえ、客車を預かっている意識を常に持つ。</li><li>3. 携帯電話はもちろん、喫煙、飲食はしない。</li><li>4. 客車との車間距離を常に意識するがそればかりに気をとられない。</li></ol> |



- |      |  |
|------|--|
| 代行終了 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 誘導は絶対に行い、うっかりミスによる事故を起こさない！</li><li>2. バックでの車庫入れは必ず、窓かドアを開け後方を目視。</li><li>3. 雨の日の誘導は特に注意！</li><li>4. 誘導者が精算中は、客車は絶対に動かさず、精算後の誘導を待つこと。</li></ol> <p><b>車庫入れでの自損事故が最多！誘導は絶対に！</b></p> |
|------|--|



- |    |   |
|----|---|
| 帰社 | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 業務終了で、緊張感が緩み漫然とした運転になりやすい。</li><li>2. スピードの出しすぎに注意。</li><li>3. パートナー同士での運転をチェック。</li></ol> <p><b>帰社中での事故は大きな事故になりやすい。帰社中でも代行中と同じ意識で安全運転！</b></p> |
|----|---|

『人』、『物』の輸送の安全に直接携わるプロの運転手として、交通ルールを守ることとはもとより、プロドライバーとしての自覚を持ち、謙虚な態度でハンドルを握る心構えがきわめて大切です。



# 誘導無しで最も多い事故ケース

随伴ドライバーは見通しの悪い場所の出庫では絶対誘導！



見通しの悪い場所での出庫で誘導しない場合

車庫入れでは絶対誘導！

客車ドライバーは誘導が就くまで車を動かさない！



車庫入れの際に誘導しない場合

**随伴ドライバーは絶対誘導する！**

# 事故予防の4ヶ条

1. 客車乗車前は車の周囲を2人でチェック！
2. 出発・到着の誘導は絶対に行う！
3. スピードダウン！
4. 随伴車はいつもきれいに！

運転代行は2人1組の業務です。帰社の間などにお互いの運転をチェックし合い、運転技術の向上を図りましょう。(例えば、新人には必ずベテランと組ませる)。それが事業所ドライバー全体の向上にも繋がり、事業所のイメージアップにも繋がるはずです。

また、

「客車運転手は絶対に事故を起こさない、傷つけない。」

「随伴運転手は事故を起こさせない、傷つけさせない。」

の強い信念で取り組む様、事業者・運行管理者は指導し、運転者も業務に従事しましょう。